

II. インドネシア共和国

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総人口：2億6,532万人（2018年 IMF推計） ○ 経済環境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たり GDP：4,052ドル（2018年 IMF推計） ・ 実質 GDP 成長率：5.3%（2018年 IMF推計） ・ 1ドル=13,877ルピア/1ルピア=0.01円(2018/4/30) 	
2. 金融制度概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 銀行等の業態分類（機関数、総資産シェア、根拠法）（2018年2月末） <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業銀行（115、98.4%、1992年銀行法） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国有銀行（4、38.6%） ➢ 地方開発銀行（27、8.2%） ➢ 国内民間外為銀行（42、40.2%） ➢ 国内民間非外為銀行（21、1.2%） ➢ 合弁銀行（12、4.6%） ➢ 外国銀行（9、5.6%） ・ 庶民信用銀行（1,615、1.7%、1992年銀行法） ○ 監督官庁：金融サービス庁（OJK） ○ 商業銀行と庶民信用銀行の個人預金（2018年2月） <ul style="list-style-type: none"> ・ 総額：5,143兆ルピア ・ 当座預金：22.4% ・ 定期預金：44.1% ・ 貯蓄預金：33.5% ○ 銀行による貸出残高（2018年2月） <ul style="list-style-type: none"> ・ 総額：4,692兆ルピア ○ 預金保険制度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 預金保険の対象として、商業銀行（外国銀行の国内支店を含む）、庶民信用銀行、シャリーア商業銀行、シャリーア庶民信用銀行の預金が保護される。1預金者当たり最高20億ルピアまで保証。 ○ 金融税制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利子所得には20%、配当所得には非居住者の場合は20%、居住者の場合は10%の源泉分離課税。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2013年12月末に銀行監督、バンキングライセンス発行等の権限が中央銀行（BI）から金融サービス庁（OJK）に移譲された。 ○ 商業銀行、国民信用銀行のうち、イスラム金融のみを取扱う銀行については別途根拠法として2008年シャリーア銀行法が施行されている。 ○ 外国銀行の国内支店は預金保険の対象となる一方、国内商業銀行の海外支店は対象外となっている。

<p>3. インドネシア・ポストの概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郵便貯金制度・経営形態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 郵便サービスを提供するインドネシア・ポスト（PT Pos Indonesia）は、政府 100%所有の株式会社である。 ・ インドネシア・ポストの金融業務は、郵便為替、郵便振替と言った送金業務は自己の業務として実施しているが、その他の預金業務等についてはBTN 銀行など他の金融機関からの委託により実施している。 ○ 主な商品 <ul style="list-style-type: none"> ・ 郵便為替、代引払い、振替・振込等の他、民間銀行の商品・サービス（預金、貸付等）を郵便局で提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インドネシア・ポストでは2016年の金融サービスによる収益が約 1.117 兆ルピアで、総収益の 23%を占めている。 ○ ウェスタン・ユニオン社との業務提携により、国際送金サービスを提供している。
<p>4. 金融セクターにおけるリテール金融機関の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ BTN 銀行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1897 年に Postspaarbank として設立され独立後の 1950 年に郵便貯蓄銀行（インドネシア名：Bank Tabungan Pos、英名：Savings Bank Pos）に改名、1968 年に国有銀行に。現在でもインドネシア・ポストと協業し、郵便局窓口を通じて貯蓄口座商品を提供している。 ・ 1974 年以降住宅ローンの専門機関として発展した経緯から、貸出面では 9 割が住宅関連。 ・ 郵便局で取り扱われる預金商品は、同行普通貯蓄口座や国営大手行よりも魅力的な利率設定ながら、各種定期預金商品には及ばない水準。 ○ 庶民信用銀行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模企業や地域コミュニティに向けての金融機関。 ・ 当座預金の受け入れ、銀行間決済システムの取扱いは禁止されている。 ・ 融資手続が比較的簡単で、貸出金利は高めに設定されている。 ○ 協同組合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 貯蓄と貸付を取り扱う協同組合が存在し、原則として担保に基づき運転資金等にかかる貸出を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インドネシア・ポストは国民に身近な存在で、低中所得者層の顧客が多く、他金融機関と比較して口座管理手数料の低い預金商品を提供している。 ○ BTN 銀行は住宅金融の最大手行となることを目標に、個人住宅ローン貸出への特化を図っている。 ○ 業務範囲として定期預金、普通預金の受け入れと貸出。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国営質屋 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現金の短期融資を行なうが、預金受入は行なっていない。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5. 最近の金融動向と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リテール・バンキングへの重点シフト <ul style="list-style-type: none"> ・ 所得水準の向上に伴って中間層の厚みが増し、インドネシアのリテール金融のビジネスチャンスが大きく広がる中、商業銀行は、消費意欲が旺盛になりつつある人々のニーズを取り込もうと、自動車ローンや住宅ローン、クレジットカード等の事業を急速に拡大している。 ○ 金融包摂に向けた主な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアでリテール金融へのシフトが重点戦略となる中、金融サービスへのアクセスの提供機会を高める、金融包摂に向けた取り組みが、世界銀行やインドネシア政府のイニシアチブのもとで推進されている。 ・ 具体的には、マイクロファイナンスの普及、テクノロジーの進展、金融教育等が進められている。 ○ 金融セクター改革 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融セクター改革として、銀行の健全性や効率的な規制体制や監督体制などを推進する取り組みや、外国銀行の出資比率規制の強化、国立社会保障制度の導入などが進められている。 ○ キャッシュレス化の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融包摂に向けた取り組みの一環として、インドネシア政府はキャッシュレス化を進めており、その結果電子マネーの発行数や取引金額は大幅な増加傾向が続いている。 ○ モバイル決済の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアでは、携帯電話の普及率が高まる中で、アプリなどの利用が可能なスマートフォンの普及率もかなり高まっており、モバイル決済普及の素地はできている。 ○ インドネシア・ポストの動向 <ul style="list-style-type: none"> ・ マンディリ銀行を含め、BTN 銀行以外との協業にも積極的に取り組んでいる。広範な国内ネット 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インドネシアでは個人消費の拡大に伴いリテール・バンキングへの注目度が高まっている。 ○ こうした金融包摂に向けた取り組みを背景に、15 歳以上人口の口座保有比率は、2014 年の 36%から、2017 年には 49%と大きく上昇。 ○ 外国銀行の出資比率規制の例外規定を活かして、日系含むアジア各国の銀行が進出。 ○ 2015 年 7 月以降、老齢年金、雇用保険の給付等を拡充する国立社会保障制度が導入。 ○ 2017 年の電子マネー発行数は約 9,000 万件と、2014 年の 3,574 万件から、約 2.5 倍にも増加している。 ○ FT Confidential Research の調査によると、調査対象者中約 3 割がモバイル決済を利用したことがあると回答、モバイル決済が浸透し始めている。

	ワークを有することから業務提携の申し込みも多い。	
--	--------------------------	--